

サムライトレーディング

埼の強み

埼玉県桶川市に卵の殻の再利用に情熱を傾ける企業がある。サムライトレーディングという勇ましい社名は、海外で覚えてもらいやすいという理由で付けた。桜井裕也社長は父とともに外食産業向けデザートなどの製造会社と販売会社を経営していた。毎日1ト近く出る卵の殻を目にするうちに「これを何とかしたい」という思いが募り、2017年、会社を父に任せ、同社を設立した。

同社によると、国内で消費される卵は1人当たり年333個で、排出される殻は年間25万トにのぼる。殻の一部はグラウンドなどに白線を描くた

卵の殻、紙やプラに再利用

めの粉末に利用されているが、大半は産業廃棄物として焼却処理される。だが燃やすのにも燃料が必要で二酸化炭素(CO₂)を排出する。

今年開発した「CAMISHELL」(カミシェル)は殻を10〜50%混ぜた紙だ。紙の原料になるパルプの使用量を減らし、森林伐採を抑えることができる。

サムライが三菱製紙や新生紙、パルプ商事に販売ライセンスを供与し、3社共同で商標登録をした。液卵メーカーなどが殻の乾燥・粉砕装置を設置すればサムライが殻を引き取る。装置には3000万円ほどかかるが、産廃処理料金が不要になるので「1年以内に採算が取れるのではないか」(桜井社長)とみている。

一般の紙よりやや割高だが、持続可能な開発目標(SDGs)の取り組みの一環として、企業や地方自治体の注目を集め

環境へ配慮 大手も採用

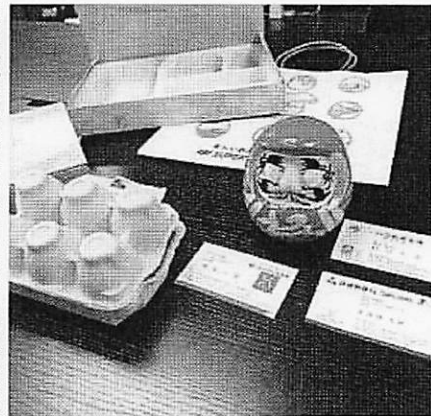
ている。封筒や名刺、有料化されたポリ袋の代わりに使われる紙袋、卵や弁当のパッケージなど、用途は広がりつつある。

これに先立ち18年に開発した「プラシエル」は卵の殻を60%以上配合したバイオプラスチックで、プラの原料である石油の消費量を削減でき、粉砕した殻を溶かしプラと混ぜて小粒のペレットにする。ペレットは一般のプラと同様に射出成型機で様々なものに加工できる。新たな設備は不要で金型もそのまま使える。価格は通常のプラとほぼ同じだ。

まず採用に動いたのは自動車部品大手のマレリだ。本気度を示すことになるかもしれない。(松田隆)

桜井社長は殻の再利用にこだわる理由について「産廃費用を払ってさうで、プラの原料である石油の消費量を削減でき、粉砕した殻を溶かしプラと混ぜて小粒のペレットにする。ペレットは一般のプラと同様に射出成型機で様々なものに加工できる。新たな設備は不要で金型もそのまま使える。価格は通常のプラとほぼ同じだ。」

SDGsに対する企業の本気度を示すことになるかもしれない。(松田隆)



卵の殻を再利用した紙「カミシェル」は様々な用途で使われ始めている